

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2015年2月号 通巻74号 毎月1日発行 購読無料

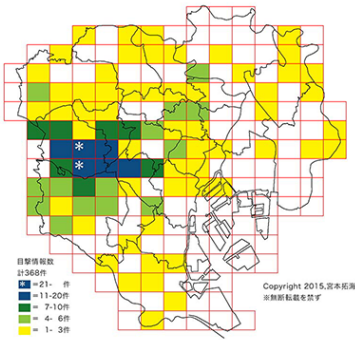
©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ハクビシンは凶暴？

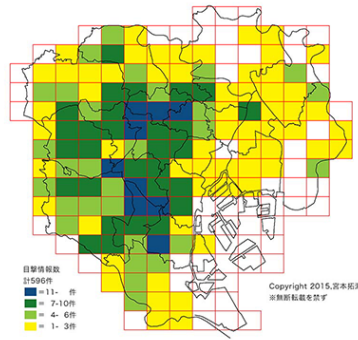
そのような事例は非常に少ない

東京都23区 タヌキ目撃情報分布図(2012年～2014年)



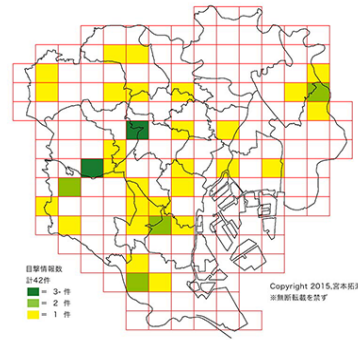
タヌキ

東京都23区 ハクビシン目撃情報分布図(2012年～2014年)



ハクビシン

東京都23区 アライグマ目撃情報分布図(2012年～2014年)



アライグマ

今回は適当な写真がないので、最新の報告書より目撃情報の分布地図を掲載します。

毎年1月は目撃情報を分析した報告書を公開しています。今年はその中で「タヌキとハクビシンの鳴き声」と「ハクビシンとアライグマの襲撃」を紹介しています。今回は襲撃についてちょっと解説します。

駆除業者がおおげさなわけ

どうも世間では「ハクビシンは凶暴」という話が出回っているようです。ネットで「ハクビシン 凶暴」を検索してみると確かにそう書かれたページがごろごろ表示されます。ただ、よく見るとその大半は駆除業者のページか、害獣対策のページです。まるで駆除業者が恐怖をあおっているようにも私には見えます。もっとも、駆除業者がハクビシンを凶暴だと思ふには理由があります。天井裏にいるハクビシンを捕獲する、というシチュエーションは駆除業者ならよくあることです。天井裏のような逃げ場のない狭い空間に追い込まれたならば、ハクビシンも必死になって逆襲しようとするのは当然の

ことです。つまり駆除業者は普通の人よりもハクビシンに襲われる確率が非常に高くなるのです。

そういう場所ではなく、普通に路上でハクビシンに出会っても襲われるということはまずありません。ハクビシンはささっと逃げていくでしょう。これは東京タヌキ探検隊！が集めたデータでも明らかで、ハクビシンの全目撃情報1600件以上の中で襲撃事例は1件しかありません(攻撃的な事例、威嚇した事例を合わせても30件以下)。襲撃はかなり特殊な状況でだけ発生するのです。

アライグマの場合は全目撃情報約200件のうち襲撃事例が9件記録されていて、ハクビシンよりも凶暴のように見えます。ただし、襲撃事例は「子連れのアライグマが散歩中のイヌを襲う」という状況が共通しているようです。ですのでアライグマもいつでもどこでも凶暴というわけではありません。アライグマについてはもっと事例を多く集めていけば襲撃の条件がはつきりしてくるかもしれません。

ちなみにタヌキには威嚇例はありますが襲撃例はありません。

噂を信じちゃいけないよ

冷静に考えてほしいのですが、目についたものに見境なく襲いかかるような動物なんて存在しません。ハチだっていつもいつも刺してくるわけではありませんし、毒ヘビでもそうです。そもそもハクビシンもアライグマも雑食なので動物ばかりを食べるわけではありませんし、食べる対象も自分より小さな鳥やネズミや昆虫です。東京タヌキ探検隊！は動物たちの本当の姿を知ってもらうためにもさまざまなデータを提供していきたいと思っています。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>